

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394000042		
法人名	医療法人 双樹会		
事業所名	グループホーム サマリヤの家 (東)		
所在地	愛知県新城市矢部字広見55番地1		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和6年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2394000042-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2394000042-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年10月19日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在、ADLの維持に力を入れ取り組んでいる。毎日の散歩を日課として取り組んでいるほか、昨年より機能向上訓練加算を算定し、当法人の老人保健施設のPTの指導の下、機能訓練も毎日欠かさず行っている。また、職員は、「できることを奪わない介護」を意識し、ご利用者様のできることを共有することで、できないと諦めず、ご利用者様と一緒にできることを増やすように努めている。また新型コロナウイルスが5類となっても、引き続き感染症対策を行いながら、ご利用者が充実した生活を送ることができるように、外部との繋がりも図りながらサービスの提供を心掛けている

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長引くコロナ禍で、地域行事の中止やホームの外部との交流に大きな制約を受けてきたが、近隣の高校や他の事業所などの関連団体との交流に努め、外部とのつながりを大切に取組みがある。本年5月には、新型コロナウイルスが第5類に移行されたことを受け、感染対策を講じた上で湯谷の紅葉見物や、新城歌舞伎保存会からの招待を受けている。コロナ禍により、利用者の活動量は減ることとなり、身体的な機能の低下を防ぐため、法人内の理学療法士の協力を得て機能訓練を行っている。日常的には散歩や外気浴を行い、気分転換を図っている。ホームの取組みは、利用者の意向を優先したものであり、家族からも感謝の言葉が寄せられている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で理念を唱えるようにしており、常に理念を念頭に置き、支援を行っている	ホームの理念は朝礼で唱和し、職員に周知している。職員は理念を基に利用者個々に寄り添い、適切な支援が提供出来るように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などにも積極的に施設の存在を知っていたけるように努めている	他業種との交流や共同事業への取組み、高校生とのコラボの認知症カフェへの取組みなど、地域資源を活用し交流を深めている。地域行事も再開してきており、参加を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度新たにキャラバンメイト研修に2人の職員が受講した。認知症サポーター養成講座などを通し、施設の取組みなどを地域に伝えながら認知症の理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員になっている障がい者施設と連携し、お互いの利用者へのサービス提供に活かしている	運営推進会議はシルバー人材センターで行われ、地域包括支援センターや高校、他のグループホームなどの参加を得て開催している。意見交換や情報共有がなされ、ホーム運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症支援部会に管理者が所属しており、市町村と連携を図りながら、サービスの向上に努めている	地域包括支援センターとの連携が主となっている。認知症サポーター養成講座や認知症カフェを協力しながら行っている。認知症支援部会の委員であり、行政との連携は十分取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を中心に3カ月に1回、勉強会や適正化委員会を開催し、職員全体で日頃のケアについて見つめなおす機会を設けている	身体拘束適正化の委員会は3ヶ月毎に実施しており、その内容は職員に周知している。研修・勉強会では事例検討や拘束に対する理解を深める等、学ぶ機会を設けている。やむを得ず拘束を行う際は、適切な手順を踏んで行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての外部研修やリモート研修に参加し学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修等に参加し、学ぶようになっているが、最近ではコロナ禍の為、研修に参加する機会が減っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際は、家族がわかりやすいように、ゆっくりと説明し、家族からの疑問にも丁寧に受け答えを行うように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者、家族の意見に耳を傾け、要望に柔軟に答えるように努めている	利用者との日常の関わりや家族の面会時など、日ごろから意見や要望等を聞くようになっている。出てきた意見や要望は「ケース記録」などに記録し、必要に応じて検討され、運営に反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見には是々非々で答え、職員が積極的に運営に関われるように努めている	職員からの意見や提案は、会議や日常の中で聞く機会を持っている。利用者へのケアに関する事柄が多いが、検討した上でホームの運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護現場での個々の努力や実績についての評価は難しく、給料に反映などは出来ない。遅刻や勤務態度については厳しく対処している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が興味のある研修には積極的に行けるように支援している。また、良い研修があれば個々に勧めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度、GH連絡協議会のブロック長に管理者がなったこともあり、管理者以外の職員もブロック会議や研修、交流会に参加する機会が増えた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する際に、入居前情報を家族に提供していただき、新規入居者の情報の共有を行い、入所の際にご本人が安心して入所できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所は家族にとって、とても大きな決断になる為、本人だけでなく、家族が後悔しないように家族の要望などを聞き入れるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは本人が環境に慣れるまでの間、職員は、本人様と他利用者との仲立ちを行い、本人様が環境になれるようにサポートする		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることを見極め、職員と共にできることを見つけ、共に取り組む機会を設けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所したら家族と疎遠にならないように、病院受診などは、協力のできる家族には依頼するようにしている。また、コロナ禍で感染対策に気を付けながら可能な限り面会を可能としている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は本人の行きつけの美容院やお店に行ったりなど行っていたが、コロナ禍で支援が途絶えてしまった。今後、要望に応じ再開して行きたいと思う。	最近になって習い事を再開した利用者もあり、友人・知人の訪問も可能となっている。家族とのつながりを大切に、利用者が人や場との関係が維持できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの時間を設け、ご利用者同士の関わり合いの場を設けたり、協力し合える場を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他施設へ移られたご利用者様の状態をご家族様と連絡を取りながら、場合によっては家族の相談などにも応じている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サマリヤの家での生活が満足できるように、可能な限り、思いや意向に沿った対応を心掛けている	利用者との日常の関わりの中で、意向や思いを把握するように努め、家族からの情報も参考にし、得られた情報は記録している。それらは内容により検討の場に挙げ、利用者個々の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族から情報を聞き、入所後の支援に反映できるように、情報の共有に努める		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	どこまで出来、どこから出来ないかなどの心身の状態の把握に努め、日々の変化については職員間で共有できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回カンファレンスを行い、問題点などを話し合い、共有し、より良いサービスの提供が出来るように努めている	介護計画と支援の記録は連動しており、達成状況を把握しやすい。毎月のカンファレンスで検討し、3ヶ月毎に介護計画を見直している。見直しの際は、職員や家族・関係者で話し合い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケアプランの内容が実施できるように、常にケース記録と共に閲覧できるようにし、ご本人の状態を観察し、必要に応じてケアプランの見直しに繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の要望に柔軟に対応し、個別支援に繋げるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活かした個別ケアを提供できるように、どのような地域資源があるかの把握を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は入所と同時に施設の協力医を主治医とするが、強制はせず、ご本人、ご家族の意向を優先している。また	定期的にホーム協力医の訪問診療がある。入居前のかかりつけ医での受診は、原則家族対応となるが、ホームで対応することも出来る。受診結果は共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の異常が確認された場合は看護師に相談し指示を仰ぐとともに、受診も行うようにしている。また、看護師には現場に入っただきご利用者の状態把握も努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーと連絡を取り、入院によりご利用者の身体機能の低下を防ぐため、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ADLの低下に伴い、ご家族様と相談し、ご本人に合ったサービスの提供が出来るように支援している	利用者の重度化・終末期の対応については利用者・家族に説明し、理解を得ている。重度化が見られた場合、家族と話し合って方針を決め、他施設への移行も含め支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前は行っていたがここ数年行っていない。コロナが5類に移行したことを機に、今後、定期的に行うように現在検討中		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に定期的に防災訓練を実施しているが、夜間帯を想定した訓練が出来ていない為、今後取り入れていく予定	年に2回の防災訓練が行われている。災害備蓄品の整備・救急救命講習の受講と、被災時に備えた活動がある。地域の防災会議に参加しており、協力が得られるよう働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人を尊重した声掛けを心掛け、自尊心を気づけけない対応を念頭に置きながら支援している	職員は、利用者と話すときは目線を合わせ、言葉遣いに注意するなど、利用者の人権・尊厳に配慮した対応に努めている。特に声掛けは、利用者個々で受取り方が違うことを念頭に置いて行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を必要とする場面では可能な限り、ご本人希望をを反映している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主体ではなく利用者主体となるように、物事に取り組む際は、先ずはご本人の意見を伺うように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選んだり、髪の毛を整えたりなど、本人が意識して取り組めるように声掛けを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳は入居者全員で協力し合いながら行い、食器は自分で洗っていただいたりと、役割を持っていただいている。また、月に2回調理の時間を設け、職員と一緒に作る楽しみも提供している	盛付けや配膳など、利用者ができることは一緒に行うようにしている。季節や行事に因んだメニューもある。月に2回、職員と一緒に調理する機会も設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に応じ、形状を変えたりしながら、安全に摂取していただけるよう心掛けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	時間の掛かる作業だが1人1人の力に合ったケアを実践している。全て介助するのではなく、できるところはやっていただき磨き残しがないか確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所してからの本人の状況を観察し、布パンツに移行できるよう、歩行訓練を中心にADLの向上に向けた取り組みを実践している	ホームでは、トイレで排泄することを基本的に支援している。自立度の高い利用者には、見守り・確認、介助が必要な利用者には個々の状態に合わせた支援を提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を観察し、状況に応じて看護師に指示を仰ぎ、下剤や坐薬を使用し対応する。また、日頃から水分の摂取に気を付け、適度な運動を心掛けるよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日置きの入浴を基本としているが、本人の体調や気分に応じて、臨機応変に対応している。夕方の入浴を希望する方へも柔軟に対応している	3回/週の入浴機会を持ち、利用者個々の入浴スタイルに合わせて支援している。ゆず湯・菖蒲湯も提供し、ゆったりと入浴出来るよう配慮している。利用者の体調や気分に応じ、無理強いくことなく柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう、日中の活動量を増やし、天気の良い日には外で散歩などをしながら日光浴をする機会を設け、安眠に繋がるよう支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力していただいている薬局の支援を受けながら個々の状態に応じ、薬局や主治医に相談できる体制を取っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員が業務として行ってしまえば早く終わる家事などの仕事は、ご利用者と共に行い、支援の一環として行うように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援は中止していたが、感染対策を行いながら、個々の要望に応じて支援を今後再開していく予定	ホームでは、日常的な散歩や気分転換を図るための外気浴を継続している。6月以降外出は増えており、湯谷の紅葉見物に出かけたり、新城歌舞伎保存会からの招待を受けている。コロナの感染状況を見ながら、支援を再開していく用意がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所の際にお小遣いを家族より預かっており、本人の要望に応じ、買いたい物を自分で買えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロアの電話を本人の要望に応じて自由に使うようにし、自分で掛けることの出来ない方は職員が付き添い支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じ壁紙を変えたり、写真を掲示したりしている。また、イベントの告知など楽しみを持って生活していただくように工夫している	利用者が安心して過ごせるよう配慮している。季節感のある掲示物やイベントの写真を掲示し、季節の移り変わりを楽しめるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は自由に生活していただいている。しかし、昼間はフロアで過ごしている方が多い。居室で昼食後は昼寝される方もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が心地よく生活できるように、室内は自由にレイアウトしていただいている	利用者の求めに応じて家具・調度品を配置し、好みの物を飾り、利用者が心地よく暮らせるように配慮している。共有空間同様に衛生面には気を配っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立している方がトイレの場所がわかるように案内表示を設置したり、出来ることを維持するための環境づくりを心掛けている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394000042		
法人名	医療法人 双樹会		
事業所名	グループホーム サマリヤの家 (西)		
所在地	愛知県新城市矢部字広見55番地1		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和6年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2394000042-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2394000042-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在、ADLの維持に力を入れ取り組んでいる。毎日の散歩を日課として取り組んでいるほか、昨年より機能向上訓練加算を算定し、当法人の老人保健施設のPTの指導の下、機能訓練も毎日欠かさず行っている。また、職員は、「できることを奪わない介護」を意識し、ご利用者様のできることを共有することで、できないと諦めず、ご利用者様と一緒にできることを増やすように努めている。また新型コロナウイルスが5類となってからも、引き続き感染症対策を行いながら、ご利用者が充実した生活を送ることができるように、外部との繋がりも図りながらサービスの提供を心掛けている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で理念を唱えるようにしており、常に理念を念頭に置き、支援を行っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などにも積極的に施設の存在を知っていたけるように努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度新たにキャラバンメイト研修に2人の職員が受講した。認知症サポーター養成講座などを通し、施設の取り組みなどを地域に伝えながら認知症の理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員になっている障がい者施設と連携し、お互いの利用者へのサービス提供に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症支援部会に管理者が所属しており、市町村と連携を図りながら、サービスの向上に努めている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を中心に3か月に1回、勉強会や適正化委員会を開催し、職員全体で日頃のケアについて見つめなおす機会を設けている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての外部研修やリモート研修に参加し学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修等に参加し、学ぶようになっているが、最近ではコロナ禍の為、研修に参加する機会が減っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際は、家族がわかりやすいように、ゆっくりと説明し、家族からの疑問にも丁寧に受け答えを行うように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者、家族の意見に耳を傾け、要望に柔軟に答えるように努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見には是々非々で答え、職員が積極的に運営に関われるように努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護現場での個々の努力や実績についての評価は難しく、給料に反映などは出来ていない。遅刻や勤務態度については厳しく対処している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が興味のある研修には積極的に行けるように支援している。また、良い研修があれば個々に勧めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度、GH連絡協議会のブロック長に管理者がなったこともあり、管理者以外の職員もブロック会議や研修、交流会に参加する機会が増えた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する際に、入居前情報を家族に提供していただき、新規入居者の情報の共有を行い、入所の際にご本人が安心して入所できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所は家族にとって、とても大きな決断になる為、本人だけでなく、家族が後悔しないように家族の要望などを聞き入れるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは本人が環境に慣れるまでの間、職員は、本人様と他利用者との仲立ちを行い、本人様が環境になれるようにサポートする		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることを見極め、職員と共にできることを見つけ、共に取り組む機会を設けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所したら家族と疎遠にならないように、病院受診などは、協力のできる家族には依頼するようにしている。また、コロナ禍で感染対策に気を付けながら可能な限り面会を可能としている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は本人の行きつけの美容院やお店に行ったりなど行っていたが、コロナ禍で支援が途絶えてしまった。今後、要望に応じ再開して行きたいと思う。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの時間を設け、ご利用者同士の関わり合いの場を設けたり、協力し合える場を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他施設へ移られたご利用者様の状態をご家族様と連絡を取りながら、場合によっては家族の相談などにも応じている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サマリヤの家での生活が満足できるように、可能な限り、思いや意向に沿った対応を心掛けている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族から情報を聞き、入所後の支援に反映できるように、情報の共有に努める		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	どこまで出来、どこから出来ないかなどの心身の状態の把握に努め、日々の変化については職員間で共有できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回カンファレンスを行い、問題点などを話し合い、共有し、より良いサービスの提供が出来るように努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケアプランの内容が実施できるように、常にケース記録と共に閲覧できるようにし、ご本人の状態を観察し、必要に応じてケアプランの見直しに繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の要望に柔軟に対応し、個別支援に繋げるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活かした個別ケアを提供できるように、どのような地域資源があるかの把握を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は入所と同時に施設の協力医を主治医とするが、強制はせず、ご本人、ご家族の意向を優先している。また		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の異常が確認された場合は看護師に相談し指示を仰ぐとともに、受診も行うようにしている。また、看護師には現場に入っただきご利用者の状態把握も努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーと連絡を取り、入院によりご利用者の身体機能の低下を防ぐため、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ADLの低下に伴い、ご家族様と相談し、ご本人に合ったサービスの提供が出来るように支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前は行っていたがここ数年行っていない。コロナが5類に移行したことを機に、今後、定期的に行うように現在検討中		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に定期的に防災訓練を実施しているが、夜間帯を想定した訓練が出来ていない為、今後取り入れていく予定		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人を尊重した声掛けを心掛け、自尊心を気づけけない対応を念頭に置きながら支援している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を必要とする場面では可能な限り、ご本人希望をを反映している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主体ではなく利用者主体となるように、物事に取り組む際は、先ずはご本人の意見を伺うように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の準備は職員と一緒にタンスの中から服を選び自己にて好みを決めるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳は入居者全員で協力し合いながら行い、食器は自分で洗っていただいたりと、役割を持っていただいている。また、月に2回調理の時間を設け、職員と一緒に作る楽しみも提供している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に応じ、形状を変えたりしながら、安全に摂取していただけるよう心掛けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	時間の掛かる作業だが1人1人の力に合ったケアを実践している。全て介助するのではなく、できるところはやっていただき磨き残しがないか確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所してからの本人の状況を観察し、布パンツに移行できるよう、歩行訓練を中心にADLの向上に向けた取り組みを実践している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を観察し、状況に応じて看護師に指示を仰ぎ、下剤や坐薬を使用し対応する。また、日頃から水分の摂取に気を付け、適度な運動を心掛けるよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日置きの入浴を基本としているが、本人の体調や気分に応じて、臨機応変に対応している。夕方の入浴を希望する方へも柔軟に対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう、日中の活動量を増やし、天気の良い日には外で散歩などをしながら日光浴をする機会を設け、安眠に繋がるよう支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力していただいている薬局の支援を受けながら個々の状態に応じ、薬局や主治医に相談できる体制を取っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員が業務として行ってしまえば早く終わる家事などの仕事は、ご利用者と共に行い、支援の一端として行うように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援は中止していたが、感染対策を行いながら、個々の要望に応じて支援を今後再開していく予定		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所の際にお小遣いを家族より預かっており、本人の要望に応じ、買いたい物を自分で買えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロアの電話を本人の要望に応じて自由に使うようにし、自分で掛けることの出来ない方は職員が付き添い支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じ壁紙を変えたり、写真を掲示したりしている。また、イベントの告知など楽しみを持って生活していただくように工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は自由に生活していただいている。しかし、昼間はフロアで過ごしている方が多い。居室で昼食後は昼寝される方もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が心地よく生活できるように、室内は自由にレイアウトしていただいている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立している方がトイレの場所がわかるように案内表示を設置したり、出来ることを維持するための環境づくりを心掛けている		